

JICAだより

第三回開発教育指導者研修 開催される

本研修は、参加型ワークショップの紹介等を通し、開発教育経験が比較的少ない方々を対象に、学校現場等における開発教育の担い手を育成することを目的として平成13年度から毎年開催されています。教員以外にも、市民の途上国に対する関心・理解を促進することを目的にNGOで開発教育・国際理解教育を推進する立場にある人たちの参加も呼び掛け総勢44名が1月8日～9日の両日にわたりJICA札幌での研修に参加しました。実施にあたっては北海道教育庁、札幌市教育委員会、(社)北方圏センター、(財)札幌国際プラザ等、多方面からのご助言・ご協力をいただきました。

主催者側開会挨拶に続き、北海道国際理解教育研究協議会会長からの来賓挨拶の後、本研修の中心プログラムである参加型学習手法の学習が行われました。コメンテーターに酪農学園大学高橋一助教授を、ファシリテーター(進行役)にはD-net(※)のスタッフを迎え、先進国と途上国の資源・資本・技術等の格差を前提とした貿易シミュレーションにより、国際経済格差の増大、または格差是正等のヒントを感じ取る「貿易ゲーム」が実践され、ゲーム後にはその振り返り・授業への展開案が話し合われました。



参加型学習手法「貿易ゲーム」での一コマ

また、今年度JICA主催の教師海外研修プログラムに参加された4人の先生による帰国報告、青年海外協力隊員OB等による経験談・意見交換も行われた他、地域の学校で独自に開発教育・国際理解教育を実践している札幌市立もみじ台小学校・大谷地小学校、旭川市立東陽中学校、北海道当別高等学校の事例紹介がなされました。

研修の締めくくりとして、開発教育に造詣が深く、数々の関連著書及び関係調査研究でもキーパーソンとしてご活躍の北海道教育大学教授大津和子先生により、「総合学習における開発教育的アプローチの方法」と題する総括講演が行われました。

参加者からは「大変有意義な研修で良い経験となった」との声が多数寄せられました。

開発教育については、国際理解教育と関連して平成14年度以降、段階的に導入されている「総合的な学習の時間」において前向きに取り組みされており、参加者は今回の研修で得た経験と人脈を基に北海道独自の開発教育ネットワーク作りについても進展させて行くことが期待されています。



大津先生の講演



JICA研修員との交流会

※D-net: 第一回開発教育指導者研修参加者を中心に立ち上げられた開発教育に関する自主学習ネットワーク

NGOとこんにちは! 「NGO屋台村」

(財)札幌国際プラザとの共催で例年札幌市生涯学習総合センター「ちえりあ」で開催される「NGO屋台村」が、1月17日～18日の二日間にわたって開催されました。

地域社会に広く会員組織を持ち国際協力を展開する様々なNGOが、それぞれの活動への理解促進を図るための紹介ブースを出展し、身近な活動への参加について広く道民に呼びかける良い機会となっています。

また、会場ではJICA等の関連団体による市民向け各種セミナーも併せて実施。18日10時から、元青年海外協力隊員の山内猛さん・山田幸さんと滝川市の山木昇さんを講師として、「青年海外協力隊と市民参加協力の連携～マラウイへの協力」と題するJICAセミナーを行いました。

このセミナーでは、青年海外協力隊のマラウイ国ロビ地区での活動と滝川の「草の根技術協力」で実施された農業協力の例を参考として取り上げました。昨年末に作成された活動紹介ビデオ「北のまちからアフリカへ」(※)の上映も含め、JICAの「ボランティア事業」と「市民参加協力事業」の連携による成果について紹介しました。

(※)前号の「JICAだより」中でも紹介記事が掲載されています。ご参照ください。



JICAセミナーで滝川＝マラウイの事例を報告



屋台村・展示ブース